



富山県SDGs宣言実施状況報告書



2022年4月12日

CAD Office Yamamoto 2級建築士事務所

代表者名 山本 典弘

富山県SDGs宣言において宣言した取組みの実施状況について、下記の通り報告します。

記

- 1 取組み期間 令和3年9月1日（宣言日）～令和4年3月31日まで、進行中です
- 2 取組みの実施状況

No.	SDGsの達成に向けた目標と取組の実施状況
1	<p>【目標】住み続けられるまちづくり、高齢になって、動きが悪くなった場合でも、自分が過ごしてきた街に住み続けられる。これが、私の設計事務所の目標です。</p> <p>【実施状況】この目標に向かって、現在、進んでいます。介護実習センターの介護相談員というところもあり、まずは自分の住んでいるところからと思い、自宅改修等、高齢の状況下で、住み続けることができる家という事を目標に自宅改修を、他の方々のアドバイスができるようにして行っています。では入り口に手すりを設ける。窓の開閉を危なくないようにする等です。</p>
2	<p>【目標】ジェンダーによる偏見のない、又、障がい者や高齢者の平等、働き甲斐のある社会を</p> <p>【実施状況】障がい者の平等 まず、中途難聴の方への対策。私も難聴の手帳を持っています。途中難聴になった方々はすぐに手話を使えるものではありません。また、すべての人が手話をマスターしているものでもありません。お客様とや、現場での打ち合わせ時、電子メモの取入れを行い、会話を聞くから書くにしました。とある店舗での難聴の方と店員の方の話を目撃したことによります。耳の聞こえない人が話そうとしますが、手話を店員さんが分からなかった。子の時、もしあなた方ならどうするでしょう？私は、その時思ったのです。書けるものがあればと。多くの話せない人たちと話すために、紙メモや電子メモがあればと思っています。</p>
3	<p>【目標】建築は作った時が、始まりです。これは作る側の始まりでもあり、住まう側の始まりでもあるのです。</p> <p>【実施状況】これも、1番と重複するのかな？家に住まう。多くの人は体が動けなくなった場合でも、自分の住んでいるところでの死ぬまでの生活を夢見ていると思います。今まで、畳の上で寝ていた人が、立てなくなって、ベッド生活に入る。トイレが近ければと思う時がある。これらは高齢の方に多いと思いますが、仕事や事故などで、そうなる人も多いと思います。自分もその一人となり、今、住宅を住まえるように改修しています。住宅を立て直すでなく、改修して、住み続ける。これは地球温暖化防止の一つだと思いつつ、これからのSDGsの中に含まれるものだと思います。</p>

※宣言日から3か月に満たない場合は、翌年度からの報告となります。